職業実践専門課程等の基本情報について

		設证	置認可年月	目 校县	長名			所在地			
┃ 日本工学院専門	学校	昭和	和51年7月	1日 中村	英詞		144-8655 東京都大田区西蒲B	∃5-23-22			
設置者名			立認可年月		者名		03-3732-1111	所在地			
学校法人片柳:	一一		和25年3月		茂		144-8655 東京都大田区西蒲B				
				, ,		(電話) (03-6424-1111				
<u>分野</u> 工業		認定課程名 □業専門課		認定学科名 情報処理科]士認定年度 23(2011)年度	高度専門士認定	年度		專門課程認定年度 26(2014)年度
								で即戦力となる人材を育	5成。企業:		
学科の目的				とし、3つのスキルをバ					17X0 ILX		
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)		-ト試験、基2 2名(3.82%)		者試験、情報検定J検	2級、MOS						
修業年限	昼夜	全課程の		な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,710 単位時間	1,335	単位時間単位	0 単位時間	1,875 単位時間	0	単位時間単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒乳	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生害	引合(B/A)	. –	. –			. –
320 人	280) 人		105 人	38	%					
	■卒業者		:	153	I	人					
		i望者数(D)) :	125		<u> </u>					
	■就職者	「剱 (E) 記職者数 (F)	:	113 48							
	■就職率			90		%					
			元就職者の)割合 (F/E) 42		%					
	■卒業者	に占める就理	職者の割合			%					
就職等の状況	■進学者 ■その他			28		人					
	12人										
	(令和	. 6	年 度	・に関する令和7年5月:	1日時占の個	幸報)					
	■主な就	職先、業界		TCB0 7 50 11 11 17 0 71 .	F 11 11/1/1/1/1/1	1 HK/					
		コム株式会	社、旭情幸	弱サービス株式会社.	烘ザ会社						
	ム、JBCC		- 1			ジェイテック	、富士ソフト株式会	性、住友不動産株式会	≷社、株式	t会社JR東 E	日本情報システ
	■民間の	C株式会社()評価機関等			. 怀以安讧	ジェイテック		性、住友不動産株式 <i>会</i>	会社、株式	t会社JR東 E	日本情報システ
第三者による 学校評価	※有の場合)評価機関等 よ、例えば以下	等から第三	者評価: 意記載		ジェイテック	無		≩社、株式	t会社JR東E	日本情報システ
学校評価	※有の場合	評価機関等	等から第三	者評価: 意記載	受審年月:	ジェイテック	無 評	吐、住友不動産株式会 価結果を掲載した ームページURL	会社、株式	t会社JR東E	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合	評価機関等 別えば以下 評価団体:	等から第 <i>三</i> ドについて任	者評価: 意記載	受審年月:	ジェイテック	無 評	価結果を掲載した	会社、株式	t会社JR東E	日本情報システ
学校評価 当該学科の	※有の場合 http://ww	評価機関等 別えば以下 評価団体:	等から第 <i>三</i> Fについて任 .jp/departr	者評価: 意記載	受審年月:	ジェイテック	無 評	価結果を掲載した	会社、株式	t会社JR東 E	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 http://ww	評価機関等 、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac,	等から第三 Fについて任 .jp/departr .5算定)	者評価: 意記載	受審年月:	ジェイテック	無 評	価結果を掲載した		単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 Fについて任 .jp/departr .5算定) 女	者評価: 意記載	受審年月:		無 評	価結果を掲載した	2, 445		日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 Fについて任 jp/departr 3算定) 女 うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 等と連携した実験・実	受審年月: s/ 習・実技の i		無 評	価結果を掲載した	2, 445	単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 FICONで任 jp/departr 5算定) t うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	受審年月: s/ 習・実技の i		無 評	価結果を掲載した	2, 445 810	単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 Fについて任 jp/departr 3算定) 女 うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic met/design/graphic pet/design/graphic pet/pet/design/graphic pet/pet/design/graphic	受審年月: s/ 習・実技の i 業時数	受業時数	無	価結果を掲載した	2, 445 810	単位時間単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ URL	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 FICONで任 jp/departr 5算定) t うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した	受審年月: s/ 習・実技の4 業時数 c必修の実影	受業時数 途・実習・実	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 FICOUTE jp/departr 5算定) 女 うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 二必修の実際	受業時数 険・実習・実 習の授業時数	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による	等から第三 FICOUTE jp/departr 5算定) 女 うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphic 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 二必修の実際	受業時数 険・実習・実 習の授業時数	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOLVで任 jp/departr 5 算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修授	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 二必修の実際	受業時数 険・実習・実 習の授業時数	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 ネ・例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数	等から第三 FICOLVT任 jp/departr 5算定)	者評価: 意記載 ment/design/graphics 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 に必修の実際	受業時数 後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOUNT 任 jp/departr 5算定) うち企業等 うち企業等 (うち企業 章定) な うち企業等 な うち企業等	者評価: 意記載 ment/design/graphics ment/design/graphics 等と連携した実験・実 を連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター を等と連携した実験・実	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 に必修の実際 ニンシップの	受業時数 後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOUNT 任 .jp/departr .5算定) 	者評価: 意記載 ment/design/graphics 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター を等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 に必修の実際 ニンシップの	受業時数 後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	無 評 ポ	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOUNT 任 .jp/departr .5算定) . 5 ち企業等 . 5 ち企業等 . (う ち企業等 . (う ち企業等 . (う ち企業等) . (う ち企業等) . (う ち企業等)	者評価: 意記載 ment/design/graphics 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した さな業等と連携したインター をと連携した演習の授 要と連携した演習の授 要素時数	受審年月: 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	受業時数) 実習・実 習の授業時数) フ授業時数)	無許水	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間単位時間間単位時間間単位時間間単位時間間単位時間間単位時間間単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 Fricolvで任 5算定) すっち企業等 うち企業等 (うち企業 章定) すっち企業等 な うち企業等 うち企業等 うち企業等 すっちを必修打	者評価: 意記載 ment/design/graphics をと連携した実験・実 をと連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した 支等と連携したインター を等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した ないまする。 ないまななななななななななななななななななななななななななななななななななな	受審年月: s/ 習・実技の打業時数 こ必修の実験 こと必修の実験 こと必修の実験 こと必修の実験 こと必修の実験	受業時数 凌・実習・実 習の授業時数) 受業時数 後・実習・実	無	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOUNT 任 5算定) 女 うち企業等 うち必修技 (うち企業 章定) 女 うち企業等 (うち企業 章方 な うち企業等 (うち企業等 (うち企業等 (うち企業等)	者評価: 意記載 ment/design/graphics 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授業 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した きと連携した演習の授業 要集時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を等と連携した演習の授業 要素時数	受審年月: s/ 習・実技の打工 を	受業時数 凌・実習・実 変を実業時数 変素時数 後 変素時数	無	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 A、例えば以下 評価団体: ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 立数による	等から第三 FICOUNT 任 5算定) 女 うち企業等 うち必修技 (うち企業 章定) 女 うち企業等 (うち企業 章方 な うち企業等 (うち企業等 (うち企業等 (うち企業等)	者評価: 意記載 ment/design/graphics をと連携した実験・実 をと連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した 支等と連携したインター を等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した ないまする。 ないまななななななななななななななななななななななななななななななななななな	受審年月: s/ 習・実技の打工 を	受業時数 凌・実習・実 変を実業時数 変素時数 後 変素時数	無	価結果を掲載した	2, 445 810 1, 710	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関等 ・例えば以下 ・Ww.neec.ac, 立時間による 総授業時数 ・立数に業時 ・「その程の修学生修生」を ・学生のを ・学の ・学の ・学の ・学の ・学の ・学の ・学の ・学の	等から第三年 (ip/departr 5 算定) (jp/departr 5 2	者評価: 意記載 ment/design/graphic: pe と連携した実験・実育と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等と連携した演習の授芸要等は連携した演習の授芸要等は連携したであっている。 pe に従事にと連携したであっている。 を連携したであっている。 を連携したであっている。 を連携したであっている。 を連携したであっている。 を連携したであっている。 を連携したであっている。 を記載業務に従事した制	受審年月: S/ 留・実技の ないをの実験 に必修の実験 に必修の実験 に必修の にからいまでは、 ととに、 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 とい	受業時数 ・実習・実 の授業時数) 一受業時数 ・実習・要習の授業時数) では、「大学者のでは、「大学者のでは、「大学者のできます。」	無	価結果を掲載した 一ムページURL	2, 445 810 1, 710 810	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状か を実習、Bいずれ	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関する ・	等から第三任 (jp/departr (jp/depa	者評価:意記載 ment/design/graphics per table	受審年月: S/ 留・実技の打 で必修の実験 に必修の実験 に必修の実験 にと必修の実験 にといるにより でで、ことにより でで、ことにより	受業時数 (東習・実習の授業時数) 受業時数 (専修学権 (専修学権	無評点	価結果を掲載した ームページURL (第1号)	2, 445 810 1, 710 810	単位時間単位時間間単位時間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施・大の大のでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これのでは、 で、これので、 で、 で、これので、 で、これので、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関以 京子 (本)	等から第三任 jp/departr 5 算 定 5 数 うちを企業業等 でするのでは、 5 数 うちを企業業等 でするのでは、 5 数 うちを企業業等 でするのでは、 5 数 うちを企業業等 でするのでは、 5 ののでは、 5 ののでは、 5 のでは、 5 の	者評価: 意記載 ment/design/graphic: pe と連携した実験・実 をと連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 変響ら進携した 変響時数 うち企業等と連携した 変響時数 うち企業等と連携した 変響時数 うち企業等と連携した 変響時数 うち企業等と連携した 変響時数 うち企業等と連携した ま等と連携した ま等と連携した まであつ は ないまする。 ないまするる。 ないまするる。 ないまするる。 ないまするる。 ないまするる。 ないまする。 ないまする。 ないまする。 ないまする。 ないまする。 ないまする。 ないまする。 ないまする。	受審年月: S/ 留・実技の打 で必修の実験 に必修の実験 に必修の実験 にと必修の実験 にといるにより でで、ことにより でで、ことにより	受業時数 ・実習・実 ・実習・実 の授業時数) 受業時数) 受業時数) (専修学材 (専修学材	無 評技の授業時数 ではなの授業時数	価結果を掲載した ームページURL 第1号) (第2号)	2, 445 810 1, 710 810	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等と連携した況 (A、Bいずれか に記入)	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関以下価機関以下価機関以下の表示では、 ・	等から第三任 jp/departr 5 算定 うちな企業業等 でする。 です。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 章と連携した実験・実 章と連携した演習の授 要等時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 変要時数 うち企業等と連携した なる業等と連携した なるません な	受審年月: S/ 留・実技の打 で必修の実験 に必修の実験 に必修の実験 にと必修の実験 にといるにより でで、ことにより でで、ことにより	受業時数 後・実習・実 変の授業時数) 受業時数 受業時数 での授業時数) (専修学科 (専修学科	無 評 対の授業時数 で 技の授業時数 で 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	2, 445 810 1, 710 810 2 4	単位時間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の目のに 企業である。 を選挙、Aに記入)	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関以下価機関以下価機関以下の表示では、 ・	等からいて任 (jp/departr (jp/depa	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 章と連携した実験・実 章と連携した演習の授 要等時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 変要時数 うち企業等と連携した なる業等と連携した なるません な	受審年月: S/ 留・実技の打 で必修の実験 に必修の実験 に必修の実験 にと必修の実験 にといるにより でで、ことにより でで、ことにより	受業時数 後・実習・実数 で変素を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 で、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を考えて、また。 で、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を	無 評本 な技の授業時数 で 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	2, 445 810 1, 710 810 2 4 0	単位時間 単単位時間 単単位位時間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間 単単位位位位位位位位位位	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業習等のBいか 企業習等のBいか に記入)	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機関、	等からいて任 (jp/departr (jp/depa	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 章と連携した実験・実 章と連携した演習の授 要等時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 変要時数 うち企業等と連携した なる業等と連携した なるません な	受審年月: S/ 留・実技の打 で必修の実験 に必修の実験 に必修の実験 にと必修の実験 にといるにより でで、ことにより でで、ことにより	受業時数 後・実習・実数 で変素を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 変素の受業を表現である。 で、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を考えて、また。 で、事を学れて、事を学れて、事を学れて、事を	無 評点 表技の授業時数 で表して、 でまるで、 でするで、 ですで、 ですで、 でして、 でして、 でして、 でして、 でして、 でして、 でして、 でして、 でして、 でし	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	2, 445 810 1, 710 810 2 4 0 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	日本情報システ
学校評価 当該学科のホームページ URL 企実等等のという。 を実習等のは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 をという。 という。 という。 という。 という。 という。 という。 という。	※有の場合 http://ww (A:単位	評価機ばい	等からいて任 (jp/departr (jp/depa	者評価: 意記載 ment/design/graphic: 章と連携した実験・実 章と連携した演習の授 要等時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 変要時数 うち企業等と連携した なる業等と連携した なるません な	受審年月: 「「「「」」」 「「」 「「 「	受業時数 (東国の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数) (東京の受業時数)	無 深技の授業時数 (な設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第3号) 第5号)	2, 445 810 1, 710 810 2 4 0 2 0 9	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	日本情報システ

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	1
奥屋 善久	株式会社エヌアイデイ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	-
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	-
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	-
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
			_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式 第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員から、現行のC言語中心のカリキュラムについて再考を促す意見が寄せられた。現場ではC++やJavaといったオブジェクト指向言語の活用が一般的であり、またNode.jsのような実行環境の知識も求められている。加えて、SQLやクラウドの基礎知識はインフラ・開発分野を問わず不可欠であり、今後はAIの活用を前提としたプロンプト設計力も重要となる。これらを踏まえ、新1年生のプログラミング教育で使用する言語の見直しを行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
特別講義	新たな企業価値を生み出すDX実現にむけたシステム企画 や設計段階での企業の取り組みを理解します。	スカイマーク株式会社
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発 の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
システム設計	ソフトウェア開発におけるテスト技法について学びます。	株式会社コベルコソフトサービス
Office実習	コンビュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目 にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学び ます。	トレランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 教職員向けAI業務活用セミナー 連携企業等: 日本工学院 生成AI研究会

期間: 2024/7/25 対象: 日本工学院専門学校教員

内容 生成AIの教育現場への活用方法について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: パターンランゲージ活用研修 連携企業等: 株式会社クリエイティブシフ

期間: 2025/3/18 対象:日本工学院専門学校教員

内容 熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を 内容 党 ジ

学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: AWS Academy 講師向けワークショップ 連携企業等: AWS Academy Japan

期間: 2025年12月開催を計画 対象: ITカレッジ教員

内容 AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: STEAM教育、職業教育、プログラミング教育 連携企業等: 公益財団方針東京都私学財団

期間: 2025年12月開催を計画 対象: ITカレッジ教員

内容 STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者 による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分 野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する 知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体 の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校 運営の改善の参考とする。

(2)「車修学校における学校証価ガイドライン」の頂日との対応

(27) 守修子校に330 る子校計画の41・242」の	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念·目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	 (5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	[(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から 以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではない か。
- 以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。
- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構 築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に 対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

<u></u> 所属	任期	種別
セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	IT企業等委 員/卒業生委 員
株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委 員
株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	クリエイター ズ企業等委 員/卒業生委
CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協 会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	クリエイター ズ/デザイン 企業等委員
一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	学校関連
	最高顧問 株式会社マックス 専務取締役 株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼報道局長 CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会)教育事業部教育推進グループセクションチーフー般社団法人 大田工業連合会事務局長 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会常務理事 学校法人上野塾 東京実業高等学校進路指導部部長	世プトプル電子制御株式芸社 最高顧問 株式会社マックス 専務取締役 株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長 CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ 一般社団法人 大田工業連合会事務局長 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会常和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年) ・令和7年4月1日~令和8年3月31日(1年)

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

*イ*ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.neec.ac.jp/public/

URL: 公表時期: 令和7年9月30日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設·設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3)情報提供方法

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)															
		分類				配	授		芳	まえ	5法 実	場		教		企
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	記当年次・学期	業時数	単位数		演習	実習・実	校内	校外			との
											技					
1	0			キャリアデザ イン 1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1 · 前	30	2	0			0		0		0
2	0			キャリアデザ イン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。 また面接対策などをしっかり学びます。	1 · 後	30	2	0			0		0		0
3	0			ビジネススキ ル 1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」 「話し方」などのマナーを習得します。	1 . 後	30	2	0			0			0	
4	0				プレゼンテーションソフトを利用し、多くの 人の前で発表する技術を身につけます。	1 · 後	30	1			0	0			0	
5			0	スポーツ実習 1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高め ます。	1 • 後	30	1			0		0	0		0
6			0	コミュニケー ション英語基 礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニ ケーションを学びます。	1 · 前	15	1	0			0		0		
7	0			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1 • 後	30	2	0			0			0	
8	0			IT リテラシー	インターネットリテラシーやパソコン操作、 Windows 操作などを学びます。	1 · 前	30	1			0	0		0		0
9	0				さらなる未来の問題解決に対応できるように、IT トレンド技術に関して学びます。	1 · 後	30	2	0			0		0		0
10	0			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者 試験の科目にもなった表計算ソフトなどのア プリケーション操作を学びます。	1 · 前	30	1			0	0			0	0
11	0				システム戦略や経営戦略、マネジメントなど について学びます。	1 · 前	30	2	0			0		0		
12	0			IoTもの作り 実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラム を作成します。	1 · 前	30	1			0	0		0		
13	0			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する 簡易的なプログラムを作成します。	1 · 後	30	1			0	0		0		
14	0			コ ン ピ ュ ー タ・テクノロ ジー 1		1 · 前	60	4	0			0		0		
15	0			コ ン ピ ュ ー タ・テクノロ ジー2	システム開発技術などテクノロジ分野につい て学びます。	1 · 前	60	4	0			0		0		

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発) 分類								+2	後業プ	⊢:±	場所		教員		
	必	選択必	自由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・労	授業時	単位	講	演	実験・実習	校	校	専	兼	企業等とのは
	修	修	択			学期	数	釵	義	習	· 実 技	囚	外	任	仕	連携
16	0				プログラムを作成する上で重要なアルゴリズ ムを情報処理試験対策も含めて学習します。	1 • 前	30	2	0			0		0		
17	0			プログラミン グ基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログ ラムを作成します。	1 • 前	60	2			0	0		0		
18	0			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
19	0				リレーショナル型データベースの構造や管理 機能などデータベースの基礎を学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
20	0			情報セキュリ ティ	企業の業務システムやコンピュータシステム を安全に利用するために求められる情報セ キュリティについて学習します。	1 • 後	30	2	0			0		0		
21	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	1 • 前	30	2	0			0		0		
22	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	1 • 後	60	4	0			0		0		
23	0			プログラミン グ実習 1	(システム開発コース)「プログラミング基 礎」をベースに、より実践的なプログラミン グ技術を学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
24		0		システム設計 1	(システム開発コース)システム開発過程に おける要求定義から内部設計までに必要とさ れる要求分析技法、各種設計技法の基礎を学 びます。	1 • 後	30	2	0			0		0		0
25			0		基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた 対策を行います。	1 • 後	30	2	0			0		0		
26			0	資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1 • 前	30	2	0			0		0		
27			0	資格対策講座 2	各種検定資格の対策を行います。	1 . 後	30	2	0			0		0		
28			0		業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	1 • 前	15	1	0		0	0		0		0
29			0	特別講座 2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	1 · 後	15	1	0			0		0		0
30				Tokyo P-TECH 特別講座	Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行います。	1 • 通	60	4	0			0				
31			0	Tokyo P-TECH プロジェクト 実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト 実習を行います。	1 • 通	60	2			0	0				

		C業.		課程 情報処理	型科)(システム開発) 	I			授業方法 5			場	所	教	昌	
		選択必	自由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演	実験	校		専	兼	企業等との連携
32			0		一定期間企業などの研修生として働き、自分 の将来に関連のある職業体験を行います。	1 · 後	30	1			0		0	0		0
33			0		一定期間企業などの研修生として働き、自分 の将来に関連のある職業体験を行います。	1 · 後	150	5			0		0	0		0
34			0	校外研修 1	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の 当たりにする展示会や講習会に参加して、最 新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1 · 前	30	1			0		0	0		0
35			0	校外研修 2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の 当たりにする展示会や講習会に参加して、最 新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1 · 後	30	1			0		0	0		0
36	0			キャリアデザ イン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添 削や集団面接、個人面接の受け方など就職活 動に必要なスキルをしっかり学びます。	2 · 前	60	4	0			0		0		
37	0			キャリアデザ イン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また 内定先企業へのお礼状の書き方など学びま す。	2 · 後	60	4	0			0		0		
38	0			ビジネススキ ル2	仕事をする際に必要となる電話の応対、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2 • 前	30	2	0			0			0	
39			0	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高め ます。	2 · 後	30	1			0		0	0		0
40	0			Webアプリ ケーション開 発	「Web開発基礎」で学習したことをベースに Webシステムの開発を行います。	2 • 前	60	2			0	0		0		
41	0				Webシステムの脆弱性について学習し、その対 策を考え実装します。	2 · 後	30	1			0	0		0		
42	0			卒業制作1	在学中に学習したことを生かしてグループご とにテーマを決め、作品の制作や自由研究を 行います。	2 • 前	30	1			0	0		0		0
43	0				リレーショナル型データベースの構築から操 作までを実習を通して学びます。	2 · 前	30	1			0	0		0		
44	0			クラウドコン ピューティン グ	実際の業務でも使用されるクラウドサービス など、最先端のITサービスを体験します。	2 • 前	30	1			0	0		0		0
45	0				LinuxOSのインストールや環境設備を行い、 Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びま す。	2 • 前	60	2			0	0		0		
46	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	2 • 前	60	4	0			0		0		
47	0			情報系資格対 策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	2 • 後	60	4	0			0		0		

				課程 情報処理	里科)(システム開発)				177	; Alle =	L \	18	=r	+/L	- 1	
	必修	分 選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講		実験・実習・実技	場 校 内	<u>所</u> 校	教 専 任		企業等との連携
48	0				 (システム開発コース)様々なシステムに対 応したプログラミングを学習します。 	2 • 前	60	2			0	0		0		
49	0			プログラミン グ実習 3	(システム開発コース)様々なシステムに対 応したプログラミングを学習します。	2 · 後	60	2			0	0		0		

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)																	
		分類							授業方法		授業方法		授業方法		所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	との		
50	0			システム設計 2	(システム開発コース)システムやアプリ ケーション開発過程における各種設計技法を 実践的に学びます。	2 • 前	30	2	0			0		0				
51			0	基本情報対策 講座 2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた 対策を行います。	2 • 前	30	2	0			0		0				
52			0	基本情報対策 講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた 対策を行います。	2 · 後	30	2	0			0		0				
53			0	資格対策講座 3	各種検定資格の対策を行います。	2 • 前	30	2	0			0		0				
54			0	資格対策講座 4	各種検定資格の対策を行います。	2 · 後	30	2	0			0		0				
55			0	特別講座 3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	2 • 前	15	1	0			0		0		0		
56			0	特別講座 4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	2 · 後	15	1	0			0		0		0		
57			0	インターン シップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分 の将来に関連のある職業体験を行います。	2 · 後	150	5			0		0	0		0		
58			0	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2 • 前	30	1			0		0	0		0		
59			0	校外研修 4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2 · 後	30	1			0		0	0		0		
			合語	†	59	1	4目				2445	単	立(単位	問制	引)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件: 卒業時に必修科目1710時間)以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期			
以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習1~2、校外研修1~4、インターンシップ1~3、基本情 履修方法: 報対策講座1~3、資格対策講座1~4、特別講座1~4、コミュニケー ション英語基礎、コミュニケーション英語応用	1 学期の授業期間	15 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	置認可年月	日 校:	長名	_		所在地			
日本工学院専門	学校	昭和	回51年7月	1日 中村	英詞	〒 (住所)	144-8655 東京都大田区西蒲田	1 5-23-22			
設置者名		設立	立認可年月	日代表	者名	(電話)	03-3732-1111	所在地			
学校法人片柳:	学園	昭和	回25年3月	1日 千葉	茂	〒 (住所)	144-8655 東京都大田区西蒲田	15-23-22			
分野	• —	認定課程名		認定学科名	2	(電話)	03-6424-1111 門士認定年度	高度専門士認定	'在臣	一時業主建	専門課程認定年度
工業		業専門課		情報処理和			成23(2011)年度	一	. T 		26(2014)年度
学科の目的							ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー		育成。企業	が求めるITス	くキル・ヒューマンス
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	中途退学	者 14名(3.8	8%)								
修業年限	昼夜	全課程の何	修了に必要 単位	な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実	!験	実技
2 年	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,710 単位時間 単位	1,335	単位時間単位	0 単位時間	1,875 単位時間 単位	0	単位時間 単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒到	€員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生害	引合(B/A)	<u> </u>			I.	
320 人	280	Д		105 人	38	%					
	■卒業者		:	153	l	人] -				
	■就職希 ■就職者	望者数(D) 数(E)) <u>:</u> :	125 113			-				
	■地元就	職者数(F)		48		人	- -				
	■就職率 ■就職者		元就職者の	90 割合 (F/E)		%	=				
	■卒業者	こ占める就理	哉者の割合	(E/C)		%	-				
就職等の状況	■進学者	数 7		74 28		<u>%</u> 人	-				
	■その他			20			-				
	12人		tre rise also allis also)-BB by Araba a D		t+ +n \					
	(令和 ■ 主な就	6 職先、業界		に関する令和7年5月	1 目時点の¶	育報)					
	(令和6年度		•								
				段サービス株式会社.	株式会社	ジェイテッ	ク、富士ソフト株式会社	社、住友不動産株式:	会社、株式	t会社JR東	日本情報システ
		 株式会社 評価機関等		老評価·			無				
第三者による 学校評価		、例えば以下						for Alicer to Jerosia and			
		評価団体:			受審年月:			価結果を掲載した ームページURL			
当該学科の ホームページ URL	http://wv	ww.neec.ac.	jp/departr	nent/design/graphic	s/						
OKE	(A:単位	立時間による	算定)								
		総授業時数	t						2, 625	単位時間	
			うち企業等	と連携した実験・実	習・実技の	授業時数			930	単位時間	
			うち企業等	と連携した演習の授	業時数					単位時間	
			うち必修授	業時数					1, 710	単位時間	
				うち企業等と連携した	こ必修の実際	験・実習・	実技の授業時数			単位時間	
企業等と連携した				うち企業等と連携した	こ必修の演	習の授業時	数			単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか			(うち企業	等と連携したインター	ーンシップ	の授業時数)		930	単位時間	
に記入)	(B:単位	立数による算	(定)							_	
		総授業時数								単位	
				と連携した実験・実		授業時数				単位	
			うち企業等	を連携した演習の授 業時数	未吁奴					単位単位	
				**呼吸 うち企業等と連携した	こ必修の実際	験・実習・	実技の授業時数			単位	
				うち企業等と連携した						単位	
			(うち企業	等と連携したインター	ーンシップ	の授業時数)			単位	
		てその担当 門課程の修	する教育等	限程を修了した後、学 に従事した者であっ 4該業務に従事した期 6	て、当該専	(亩修学	校設置基準第41条第1項	第1号)	2	Д	
		② 学士の	学位を有す	- る者等		(専修学	校設置基準第41条第1項	(第2号)	4	人	
教員の属性(専任教員について記		③ 高等学	校教諭等網	E 験者		(専修学	校設置基準第41条第1項	第3号)	0	人	
教員について記 入)		④ 修士の	学位又は専	門職学位		(専修学	校設置基準第41条第1項	第4号)	2	人	
		⑤ その他	1			(専修学	校設置基準第41条第1項	第5号)	0	人	
		計							9	人	
					けるおおむ	ね5年以上	の実務の経験を有し、	かつ、高	5		
		度の実務の) 能刀を有す	る者を想定)の数						•	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	<u>作業力力</u>
奥屋 善久	株式会社エヌアイデイ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式 第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式 0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員から、現行のC言語中心のカリキュラムについて再考を促す意見が寄せられた。現場ではC++やJavaといったオブジェクト指向言語の活用が一般的であり、またNode.jsのような実行環境の知識も求められている。加えて、SQLやクラウドの基礎知識はインフラ・開発分野を問わず不可欠であり、今後はAIの活用を前提としたプロンプト設計力も重要となる。これらを踏まえ、新1年生のプログラミング教育で使用する言語の見直しを行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

|IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技 術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定 し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づ き、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科 目 概 要	連携企業等
特別講義	新たな企業価値を生み出すDX実現にむけたシステム企画 や設計段階での企業の取り組みを理解します。	
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発 の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
Office実習	コンビュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目 にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学び ます。	トレランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

教職員向けAI業務活用セミナー 連携企業等:日本工学院生成AI研究会 研修名:

期間: 2024/7/25 対象:日本工学院専門学校教員

生成AIの教育現場への活用方法について 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

株式会社クリエイティブシフ 連携企業等: 片 パターンランゲージ活用研修 研修名:

期間: 2025/3/18 対象:日本工学院専門学校教員

熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を 内容

学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: AWS Academy 講師向けワークショップ 連携企業等: AWS Academy Japan

期間: 2025年12月開催を計画 対象:ITカレッジ教員

内容 AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する

②指導力の修得・向上のための研修等

STEAM教育、職業教育、プログラミング教育 連携企業等:公益財団方針東京都私学財団 研修名:

期間: 2025年12月開催を計画 対象:ITカレッジ教員

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者 による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分 野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する 知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体 の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校 運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	(1)教育理念·目標
(2)学校運営	[(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から 以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではない

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構 築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に 対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	IT企業等委 員/卒業生委 員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委 員
壺阪 敏秀	株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	グリエイター ズ企業等委 員/卒業生委
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	クリエイター ズ/デザイン 企業等委員
吉崎 彰	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	学校関連

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

広報誌等の刊行物 ・ その他(**イボームページ** URL:

https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設·設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3)情報提供方法

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

				課程 情報処理	科)(モバイルアプリ開発)											
		分類							授	後業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演 習	実習			専任		企業等との連携
1	0			キャリアデザ イン 1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った 仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄 を学びます。		30	2	0			0		0		0
2	0			キャリアデザ イン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般 常識、SPI科目の対策を重点的に行います。ま た面接対策などをしっかり学びます。		30	2	0			0		0		0
3	0			ビジネススキ ル 1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき 「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し 方」などのマナーを習得します。	1 • 後	30	2	0			0			0	
4	0			プレゼンテー ション	プレゼンテーションソフトを利用し、多くの人 の前で発表する技術を身につけます。	1 • 後	30	1			0	0			0	
5			0	スポーツ実習 1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま す。	1 . 後	30	1			0		0	0		0
6			0	コミュニケー ション英語基 礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニ ケーションを学びます。	1 • 前	15	1	0			0		0		
7	0			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1 · 後	30	2	0			0			0	
8	0			IT リテラ シー	インターネットリテラシーやパソコン操作、 Windows 操作などを学びます。	1 • 前	30	1			0	0		0	0	0
9	0			IT ソリュー ション	さらなる未来の問題解決に対応できるように、 IT トレンド技術に関して学びます。	1 • 後	30	2	0			0		0		0
10	0				コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試 験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリ ケーション操作を学びます。		30	1			0	0			0	0
11	0			ストラテジ・ マネジメント	システム戦略や経営戦略、マネジメントなどに ついて学びます。	1 • 前	30	2	0			0		0		
12	0			IoTもの作り 実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを 作成します。	1 • 前	30	1			0	0		0		

		C業:		課程 情報処理	科)(モバイルアプリ開発) 				捋	後業プ	<u> </u>	場	所	教	員	
	必	選	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演	実験	校	校	専 任	兼	との
13	0			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡 易的なプログラムを作成します。	1 · 後	30	1			0	0		0		
14	0			コンピュー タ・テクノロ ジー 1	コンピュータの基礎理論などテクノロジ分野に ついて学びます。	1 · 前	60	4	0			0		0		
15	0			コンピュー タ・テクノロ ジー2	システム開発技術などテクノロジ分野について 学びます。	1 · 前	60	4	0			0		0		
16	0				プログラムを作成する上で重要なアルゴリズム を情報処理試験対策も含めて学習します。	1 · 前	30	2	0			0		0		
17	0			プログラミン グ基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログラ ムを作成します。	1 · 前	60	2			0	0		0		
18	0			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎とな る技術を学びます。	1 · 後	60	2			0	0		0		
19	0			データベース 基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機 能などデータベースの基礎を学びます。	1 . 後	60	2			0	0		0		
20	0			情報セキュリ ティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを 安全に利用するために求められる情報セキュリ ティについて学習します。	1 . 後	30	2	0			0		0		
21	0			情報系資格対 策講座 1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	1 · 前	30	2	0			0		0		
22	0			情報系資格対 策講座 2	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	1 • 後	60	4	0			0		0		
23		0		モバイルプロ グラミング 1	(モバイルアプリ開発コース) 「プログラミング基礎」をベースに、より実践的なプログラミング技術を学びます。		60	2			0	0		0		
24		0		モバイル設計 1	システム開発過程における要求定義から内部設 計までに必要とされる要求分析技法、各種設計 技法の基礎を学びます。		30	2	0			0		0		
25			0	基本情報対策 講座 1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	1 · 後	30	2	0			0		0		
26			0	資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1 · 前	30	2	0			0		0		
27			0	資格対策講座 2	各種検定資格の対策を行います。	1 · 後	30	2	0			0		0		

		「業 [」] 分類		課程 情報処理	科)(モバイルアプリ開発) 				捋	受業ス	<u></u> 方法	場	所	教	員	
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演	実験	校	校	専	兼任	との
28			0	特別講座 1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	1 • 前	15	1	0		0	0		0		0
29			0	特別講座 2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	1 • 後	15	1	0			0		0		0
30			0	Tokyo P-TECH 特別講座	Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行い ます。	1 • 通	60		0			0				
31			0	Tokyo P-TECH プロジェクト 実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト実 習を行います。	1 • 通	60				0		0			
32			0	インターン シップ 1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	1 · 後	30	1			0		0	0		0
33			0	インターン シップ 2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	1 · 後	150	5			0		0	0		0
34			0		AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。		30	1			0		0	0		0
35			0	校外研修2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当 たりにする展示会や講習会に参加して、最新の 製品や情報に触れま校外研修 す。	1 • 後	30	1			0		0	0		0
36	0			キャリアデザ イン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削 や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に 必要なスキルをしっかり学びます。	2 • 前	60	4	0			0		0		
37	0			キャリアデザ イン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内 定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2 • 後	60	2	0			0		0		
38	0			ビジネススキ ル2	仕事をする際に必要となる電話の応対、ビジネ スメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つ ビジネスマナーを身につけます。		30	2	0			0			0	
39			0	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま す。	2 • 後	30	1			0		0	0		0
40	0			Webアプリ ケーション開 発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWeb システムの開発を行います。	2 • 前	60	2			0	0		0		
41	0			Webセキュリ ティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2 · 後	30	1			0	0		0		
42	0				在学中に学習したことを生かしてグループごと にテーマを決め、作品の制作や自由研究を行い ます。	2 • 後	180	6			0	0		0		0

				課程 情報処理	科)(モバイルアプリ開発)											
	•	分類	į						授	後業プ	5法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
43	0			データベース 応用	リレーショナル型データベースの構築から操作 までを実習を通して学びます。	2 • 前	30	1			0	0		0		
44	0			クラウドコン ピューティン グ	実際の業務でも使用されるクラウドサービスな ど、最先端のITサービスを体験します。	2 · 前	30	1			0	0		0		0

		C業 ^I 分類		課程 情報処理	型科)(モバイルアプリ開発)				1.	受業プ		場	EC.	 ±⊢	므	
		選択必修		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演	実験・実習・実技	校	校	事 任	兼	企業等との連携
45	0			Linux実習	Linux0Sのインストールや環境設備を行い、 Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びま す。	2 • 前	60	2			0	0		0		
46	0			情報系資格対策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	2 • 前	60	4	0			0		0		
47	0			情報系資格対 策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	2 · 後	60	4	0			0		0		
48			0	基本情報対策 講座 2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	2 • 前	45	2			0	0		0		
49			0	基本情報対策 講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	2 · 後	45	2			0	0		0		
50			0	資格対策講座 3	各種検定資格の対策を行います。	2 · 前	30	2	0			0		0		
51			0	資格対策講座 4	各種検定資格の対策を行います。	2 · 後	30	2	0			0		0		
52			0	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	2 • 前	15	1	0			0		0		0
53			0	特別講座4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	2 · 後	15	1	0			0		0		0
54			0	インターン シップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	2 · 後	150	5	0			0		0		0
55			0	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の 製品や情報に触れます。	2 • 前	30	1	0			0		0		0
56			0	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の 製品や情報に触れます。	2 • 後	30	1	0			0		0		0
57		0		モバイルプロ グラミング 2	様々なシステムに対応したプログラミングを学 習します。	2 • 前	60	2			0		0	0		
58		0		モバイルプロ グラミング 3	様々なシステムに対応したプログラミングを学 習します。	2 · 後	60	2			0		0	0		
59		0		モバイル設計 2	(モバイルアプリ開発コース)システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を 実践的に学びます。		30	2			0		0	0		

(_			課程 情報処理	型科)(モバイルアプリ開発)											
	分類							括	後業に	方法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校 外	専任	兼任	企業等との連携
•	•	合	<u> </u>	59	. 7	4目				2625	単作	立 (単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	<u> </u>
卒業要件: 卒業時に必修科目1710時間)以上取得すること	1 学年の学期区分	#REF!期
以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習1~2、校外研修1~4、インターンシップ1~3、基本情 履修方法: 報対策講座1~3、資格対策講座1~4、特別講座1~4、コミュニケー ション英語基礎、コミュニケーション英語応用	1 学期の授業期間	#REF! 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	置認可年月	月日 校	長名			所在地			
日本工学院専門	門学校	昭和	和51年7月	1日 中村	英詞		144-8655 東京都大田区西蒲B	目5-23-22			
設置者名		設力	立認可年月	1日 代表	長者名	(電話)	03-3732-1111	所在地			
学校法人片柳:			和25年3月		葉 茂	(住訴)	144-8655 東京都大田区西蒲6				
		認定課程名		認定学科		(電話)	03-6424-1111	高度専門士認定	- 左 庄	一种来生好	門課程認定年度
分野 工業		<u> </u>					門士認定年度 23(2011)年度	一 同及等门工部 / -	上千戊		6(2014)年度
学科の目的							まました。 はを身につけ、ビジネスで はら行動できる社会人」		·育成。企業z	が求めるITス	キル・ヒューマンス
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	中途退学	者 12名(3.8	8%)		<u> </u>						
修業年限	昼夜	全課程の何		な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、	単位いずれ	1,710 単位時間	1,335	単位時間	0 単位時間	1,875 単位時間	0	単位時間	0 単位時間
年	(E.(b)	かに記入	1	単位		単位	単位	単位		単位	単位
生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生害	引合(B/A)					
320 人	280			105 人	38	%					
	■卒業者 ■就職希	·数 (C) ·望者数 (D)) :	153 125							
	■就職者	数(E) 職者数(F)	:	113 48		-					
	■就職率	(E/D)		90		%					
)割合(F/E) 42		%					
	■卒業者	に占める就理	職者の割合	(E/C) 74		%					
就職等の状況	■進学者 ■その他			28		人					
	12人										
	(令和			に関する令和7年5月	1日時点の作	青報)					
	■ 王な就 (令和6年度)	職先、業界 ^{F充業生)}	等								
	サイバー	コム株式会		最サービス株式会社	、株式会社	ジェイテック	ウ、富士ソフト株式会 ²	社、住友不動産株式	会社、株式	会社JR東日	本情報システ
		ン株式会社(評価機関等		· 考証価·			無				
第三者による		、例えば以下					NIK				
学校評価		評価団体:			受審年月:			価結果を掲載した ームページURL			
当該学科の	l-44 / /		:- /-		/		<u> </u>				
ホームページ URL	·			ment/design/graphi	CS/						
	(A:単位	立時間による							0 505	単位時間	
		総授業時数			翌・宝坊の	运業				単位時間	
				学と連携した演習の授		又未可奴				単位時間	
			うち必修授							単位時間	
				うち企業等と連携し	た必修の実際	験・実習・乳	実技の授業時数		0	単位時間	
企業等と連携した				うち企業等と連携し	た必修の演習	習の授業時数	汝		0	単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか			(うち企業	等と連携したインタ	ーンシップ	の授業時数			940	単位時間	
に記入)	(B:単位	立数による第									
		総授業時数		こと連携しょ 中野 ウ	33.中什么	三举 吐 料				単位	
				等と連携した実験・実 等と連携した演習の授		反未吁叙				単位単位	
			うち必修授	受業時数						単位	
				うち企業等と連携し						単位単位	
				等と連携したインタ						単位	
		① 声修学	を 校の 東門部	果程を修了した後、学	を校等におい						
		てその担当 門課程の修	する教育等	等に従事した者であっ 当該業務に従事した期	て、当該専	(亩体学	校設置基準第41条第1項	[第1号]	3	Д.	
		② 学士の	学位を有す	する者等		(専修学	校設置基準第41条第1項	第2号)	4	人	
教員の属性(専任 教員について記		③ 高等学	校教諭等網	圣験者		(専修学	校設置基準第41条第1項	(第3号)	0	人	
教員に がく記入)		④ 修士の)学位又は専	厚門職学位		(専修学	校設置基準第41条第1項	(第 4号)	2	Д	
	1					(専修学	校設置基準第41条第1項	(第5号)	0	人	
		⑤ その他	0				NEXT = 1 No			^	
		計	<u>u</u>				NAME TO A STATE OF THE STATE OF			Д	
		計	のうち、写	実務家教員(分野によ する者を想定)の数	らけるおおむ	ね5年以上	の実務の経験を有し、	かつ、高	9		

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及 び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科 目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関 する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科 責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

			刀!口死让
名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	1
奥屋 善久	株式会社エヌアイデイ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	3
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式

第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員より専門学校の教育では今後より一層ジョブ型雇用の増加が予想されるため、基本的な専門スキルはもとより社会の中での課題について、積極的に取り組むことができる実践スキルやマインドが必要となるとのご意見を頂いた。「システム開発グループ演習」や「IoT実習」では、社会生活の中から課題を見つけし解決策となるシステムの開発に取り組むなど授業内容をさらに改善し工夫した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術 指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定 し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づ き、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
特別講義	で設計技術での正未の取り組みを理解しより。	スカイマーク株式芸社
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発 の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
Office実習	コンビュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	トレランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、 学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施する ことにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 教職員向けAI業務活用セミナー 連携企業等:日本工学院生成AI研究会

期間: 2024/7/25 対象:日本工学院専門学校教員

内容 生成AIの教育現場への活用方法について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: パターンランゲージ活用研修 連携企業等: 株式会社クリエイティブシフ

r.

期間: 2025/3/18 対象:日本工学院専門学校教員

内容 熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を

学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: AWS Academy 講師向けワークショップ 連携企業等: AWS Academy Japan

期間: 2025年12月開催を計画 対象: ITカレッジ教員

内容 AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: STEAM教育、職業教育、プログラミング教育 連携企業等: 公益財団方針東京都私学財団

期間: 2025年12月開催を計画 対象: ITカレッジ教員

内容 STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者 による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分 野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する 知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体 の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校 運営の改善の参考とする。

(2)「東修学校における学校証価ガイドライン」の頂日との対応

(と)・ 寺修子校に8317 ②子校計画カイドノイン」の	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念·目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

- ※(10)及び(11)については任意記載。
- (3)学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から 以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではない か。
- 以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。
- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構 築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に 対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年) 令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員 地域関連/ 会計専門委員
~令和8年3月31日(1年)	_ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
·兼 令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
協 令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ /デザイン企業 等委員
令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
会 令和7年4月1日 ~令和8年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
令和7年4月1日 ~ 今和9年2月21日 (1年)	学校関連
	~令和8年3月31日(1年)

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

*イ*ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他(URL:

https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設·設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3)情報提供方法

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

				課程 情報処理	2科)(システム運用)				l 1 .	ــ علاد ـــ	L \.L	T 18		#/_		
	必	分類選択	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業	単位		演演	実験・実		<u>所</u> 校	専		الح
	修	必修	選択			学期	数	数	義	習	習 ・ 実 技	内	外	任	任	の連携
1	0			キャリアデザ イン 1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った 仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄 を学びます。		30	2	0			0		0		0
2	0			キャリアデザ イン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般 常識、SPI科目の対策を重点的に行います。ま た面接対策などをしっかり学びます。	1 • 後	30	2	0			0		0		0
3	0			ビジネススキ ル 1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき 「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し 方」などのマナーを習得します。	1 • 後	30	2	0			0			0	
4	0				プレゼンテーションソフトを利用し、多くの人 の前で発表する技術を身につけます。	1 • 後	30	1			0	0			0	
5			0	スポーツ実習 1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま す。	1 • 後	30	1			0		0	0		0
6			0	コミュニケー ション英語基 礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニ ケーションを学びます。	1 • 前	15	1	0			0		0		
7	0			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1 · 後	30	2	0			0			0	
8	0				インターネットリテラシーやパソコン操作、 Windows 操作などを学びます。	1 • 前	30	1			0	0		0		0
9	0				さらなる未来の問題解決に対応できるように、 IT トレンド技術に関して学びます。	1 · 後	30	2	0			0		0		0
10	0			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試 験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリ ケーション操作を学びます。		30	1			0	0			0	0
11	0			ストラテジ・ マネジメント	システム戦略や経営戦略、マネジメントなどに ついて学 びます。	1 · 前	30	2	0			0		0		
12	0				ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを 作成します。	1 • 前	30	1			0	0		0		
13	0			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡 易的なプログラムを作成します。	1 · 後	30	1			0	0		0		
14	0			コンピュー タ・テクノロ ジー 1	コンピュータの基礎理論などテクノロジ分野に ついて学びます。	1 • 前	60	4	0			0		0		

		C業 分類		課程 情報処理	科)(システム運用)				捋	多業で	 方法	場	所	教	昌	
	必	選	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習	校	校	専任	兼	との
15	0			コンピュー タ・テクノロ ジー2	システム開発技術などテクノロジ分野について 学びます。	1 • 前	60	4	0			0		0		
16	0				プログラムを作成する上で重要なアルゴリズム を情報処理試験対策も含めて学習します。	1 • 前	30	2	0			0		0		
17	0				プログラムの基本構造を学び、実際にプログラ ムを作成します。	1 · 前	60	2			0	0		0		
18	0			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
19	0				リレーショナル型データベースの構造や管理機 能などデータベースの基礎を学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
20	0			情報セキュリ ティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを 安全に利用するために求められる情報セキュリ ティについて学習します。	1 • 後	30	2	0			0		0		
21	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	1 • 前	30	2	0			0		0		
22	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	1 • 後	60	4	0			0		0		
23	0			運用エンジニ アリング	ITシステムの円滑な運用に必要な知識と技術を 学びます。	1 • 後	60	2			0	0		0		
24	0			ネットワーク	(システム運用コース)LANやWANなどを中心と した基礎的なネットワーク技術を学習します。	1 • 後	30	2	0			0		0		
25			0		基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	1 · 後	30	2	0			0		0		
26			0	資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1 • 前	30	2	0			0		0		
27			0	資格対策講座 2	各種検定資格の対策を行います。	1 • 後	30	2	0			0		0		
28			0	特別講座 1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	1 · 前	15	1	0		0	0		0		0
29			0	特別講座 2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	1 · 後	15	1	0			0		0		0

		C業:		課程 情報処理	科)(システム運用)				担	受業ス	5注	提	所	教	吕	
	必	選	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演	実験	校	校	専任	兼	との
30			0		Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行い ます。	1 • 通	60	4	0			0				
31			0	Tokyo P-TECH プロジェクト 実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト実 習を行います。	1 · 通	60	2			0	0				
32			0		一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	1 • 後	30	1			0		0	0		0
33			0		一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	1 • 後	150	5			0		0	0		0
34			0	校外研修 1	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。		30	1			0		0	0		0
35			0	校外研修2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。		30	1			0		0	0		0
36	0			キャリアデザ イン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削 や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に 必要なスキルをしっかり学びます。	2 · 前	60	4	0			0		0		
37	0				就職活動に向けた就職支援を行います。また内 定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2 · 後	60	2	0			0		0		
38	0			ビジネススキ ル2	仕事をする際に必要となる電話の応対、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つ ビジネスマナーを身につけます。	2 · 前	30	2	0			0			0	
39			0	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま す。	2 · 後	30	1			0		0	0	0	0
40	0			Webアプリ ケーション開 発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWeb システムの開発を行います。	2 · 前	60	2			0	0		0		
41	0				Webシステムの脆弱性について学習し、その対 策を考え実装します。	2 · 後	30	1			0	0		0		
42	0				在学中に学習したことを生かしてグループごと にテーマを決め、作品の制作や自由研究を行い ます。	2 · 前	180	1			0	0		0	0	0
43	0				リレーショナル型データベースの構築から操作 までを実習を通して学びます。	2 • 前	30	1			0	0		0		
44	0			クラウドコン ピューティン グ	実際の業務でも使用されるクラウドサービスな ど、最先端のITサービスを体験します。	2 • 前	30	1			0	0		0		0

		L業 分類		課程 情報処理	B科)(システム運用) T				接	受業プ	方法	堤	所	教	昌	
	必	選択必	自由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校	// 校	専	兼	との
45	0				Linux0Sのインストールや環境設備を行い、 Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びま す。	2 · 前	60	2			0	0		0		
46	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	2 • 前	60	4	0			0		0		
47	0				情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種 検定試験対策を行います。	2 · 後	60	4	0			0		0		
48			0		基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	2 · 前	30	2			0	0		0		
49			0		基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対 策を行います。	2 · 後	30	2			0	0		0		
50			0	資格対策講座 3	各種検定資格の対策を行います。	2 · 前	30	2	0			0		0		
51			0	資格対策講座 4	各種検定資格の対策を行います。	2 · 後	30	2	0			0		0		
52			0	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	2 · 前	15	1	0			0		0		0
53			0	特別講座 4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端 講義を行います。	2 · 後	15	1	0			0		0		0
54			0		一定期間企業などの研修生として働き、自分の 将来に関連のある職業体験を行います。	2 · 後	150	5	0			0		0		0
55			0	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2 · 前	30	1	0			0		0		0
56			0	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2 • 後	30	1	0			0		0		0
57		0			(システム運用コース) インターネットや企業 内で利用される様々なサーバを構築します。	2 • 前	60	2			0		0	0		
58		0			(システム運用コース) インターネットや企業 内で利用される様々なサーバを構築します。	2 · 後	60	2			0		0	0		
59			0	運用管理	(システム運用コース)標準的なコンピュータ の運用管理法を学びます。	2 · 前	30	2			0		0	0		

	厚門課程 情報処 理]科)(システム運用)											
分類						授	業業	方法	場	所	教	員	
択り	自 由 授業科目名 選 択	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
	合計	59) 7	科目		·	·	2595	単	立(単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目1710時間)以上取得すること。	1 学年の学期区分	#REF!期
以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習1~2、校外研修1~4、インターンシップ1~3、基本情 履修方法: 報対策講座1~3、資格対策講座1~4、特別講座1~4、コミュニケー ション英語基礎、コミュニケーション英語応用	1 学期の授業期間	#REF! 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。